



左上/《No.58-J》77.0 x 77.0 cm / 鉛筆(4B) 紙 / 1985 / 個人蔵
 左下/《25-3-15》91.0 x 91.0 cm / アクリリック ジェッソ 合板 / 2013 / 作家蔵
 右/《ドローイング(1)》50.0 x 65.0 cm / 鉛筆 紙 / 1979 / 土火 現代美術

時 間 を 可 視 化 す る

画家・浜田浄は、1937（昭和12）年、高知県幡多郡大方町（現・黒潮町）生まれ。海と松林が美しいこの地で育ち、自然に親しむ幼児期を過ごした。その後、多摩美術大学に進学するために上京。アンフォルメル旋風が巻き起こった時代であった。しかし、彼はそれに影響されることなく、冷静に自身と向き合いながら独自の作品を制作する。故郷の高知で見た、陽が昇り、沈んでいく景色を。水平線と太陽が重なって美しく光る一瞬に強く印象づけられた浜田は、それを写実的に描くのではなく、頭の中に残った光景をイメージ化する。誰もがが見る景色であっても、感じる自然の気配や空気は一つとして同じではない。そのシリーズの一つが『ドローイング（一）』（103頁右）だ。しばらくこの光を表す作品群を手がけた後、闇の世界に興味を示すようになる。浜田は暗闇の表現として、巨大な紙に鉛筆の線を重ねて画面を塗り潰すという、気が遠くなるような制作方法へと発展させていった。それが今の浜田の特徴である。時間を可視化する。作品の原点だと言えるだろう。



《29-7-26》91.0 x 364.0 cm / アクリリック ジェッソ 合板 / 2017 / 作家蔵

ア ー テ ィ ス ト

浜 田 浄